

令和2年9月15日
奈良国立博物館

第72回
正倉院展

The 72nd Annual
Exhibition of Shōsō-in Treasures

報道発表資料

- [1] 主 催 奈良国立博物館
協 賛 岩谷産業、NTT西日本、関西電気保安協会、近畿日本鉄道、JR東海、
JR西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、大和ハウス工業、
中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力 読売新聞社
協 力 NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、読売テレビ
- [2] 会 期 令和2年10月24日（土）～11月9日（月）
会期中無休
開館時間 午前9時～午後6時
※金曜日、土曜日、日曜日、祝日（11月3日）は午後8時まで
※入館は閉館の60分前まで
- [3] 会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館
- [4] 観覧料金 **観覧には「前売日時指定券」が必要です。当日券の販売はありません。
詳細は【別紙】をご覧ください。**
- [5] 出陳宝物 出陳宝物 59件（北倉17件、中倉23件、南倉16件、聖語蔵3件）
うち4件は初出陳
※出陳宝物リストは別紙

[6] 展覧内容

第72回を迎える本年の正倉院展は、やくぶつ 薬物と武器・武具がまとまって出陳されるほか、花氈、帯、刀子、鏡、けんもつ 献物用の箱や台、ゆうぎ 遊戯具、樂器、ぎがくめん 伎楽面、衣装、文書、経巻などが出陳され、正倉院宝物の多彩な世界をご覧いただくことができます。

聖武天皇の七七忌（四十九日）である天平勝宝8歳（756）6月21日、お後の光明皇后は東大寺大仏に60種類の薬物を献納しました。目的の一つは病人に分け与えることにより、実際に使用され、現在は38種を残しています。皇后は今日の病院や福祉施設に通じる施薬院や悲田院を創設しましたが、薬物献納も皇后による一連の救済事業に位置付けることができます。今回は皇后が献納した薬物から6種が展示されるほか、由緒は不明ですが宝庫に伝わる薬物2種が出陳されます。

薬物が献納されたのと同じ日に、光明皇后は聖武天皇の遺愛品600数十件を献納しました。そのうちの6割以上に当たる400件を占めていたのが武器・武具です。そのほとんどは天平宝字8年（764）9月の恵美押勝の乱を平定するために宝庫から出され、戻ることはありませんでした。今日、宝庫には数多くの武器・武具、さらに馬具が伝えられていますが、その多くは貴人による献納品や東大寺に置かれていた品と考えられます。今回は御^{おん}申^{よろい}のざんけつ 残欠、漆^{うる}葛^{しかずら}胡^ご祿^{ろく}、金銅鉢^{かねどう}莊^{でんかざり}大力^{だいち}、梓弓^{あずさゆみ}、鞆^{とも}、鉾^{ほこ}、馬鞍^{うまのくら}が出陳されます。

また、今回は毛氈、刺繡、纈纈染めなどの染織技法、珠玉飾り、螺鈿、平脱、撥鏤など種々の工芸技法を用いた宝物を鑑賞できるのも特徴です。近年の宝物特別調査によって、花氈と色氈の材料や製法について新たな発見がありました。今回は文様を表した花氈が2床、単色の色氈が1床出陳されています。また、刺繡を用いた品には紫皮^{むらさき}裁文^{がわい}珠玉飾^{じゅ}刺繡羅帶^{らば}残欠、孔雀文刺^{くじら}繡^{しゅ}幡^{はん}、花鳥文刺^{かちょう}繡^{しゅ}幡^{はん}残片があり、纈纈染めを用いた宝物には縹纈纈布^{はなたごうけちのぬの}袍^{ほう}と纈纈布^{こうけちのぬの}袍^{ほう}が出陳されます。ガラス玉や真珠などを飾る珠玉飾りには、鞘^{さや}を珠玉で装飾した鳥犀^{うさい}把^ぱ漆^う鞘^{くわ}樺^{さい}纈^さ黃金珠玉^{うきんじゅ}莊^{とう}刀子^す、珠玉を銀線に通して円形の作品に仕上げた雜^ざ玉^{ぎょく}幡^{はん}、前掲の紫皮珠玉飾刺繡羅帶残欠があります。さらに、螺鈿には獅子や犀などを表した平螺^{へいら}鈿^{のび}背^{せん}円^{えん}鏡^{きょう}、撥鏤と螺鈿を併用した桑木^{くわの木}画^か碁^ご局^{きょく}があり、平脱には漆器面に銀板で表された花鳥を飾った銀平脱^{ぎんへいだつ}鏡箱^{かがみばこ}などが出陳されています。このほか、絵画としての魅力を有した宝物も多く、撥受けに鳥などを描いた紫檀槽^{しだんそう}琵琶^{びわ}、金と銀で花鳥などを描いた紫檀金銀泥絵琵琶撥^{しだんきんぎんねいひわのばち}、曲芸や樂器を演奏する人物などを細かく墨で描写した墨絵彈弓^{すみえのだんきゅう}が出陳されます。さらに、文書には戸籍や税に関する公的な文書、写経所における事務文書などが出陳され、奈良時代の社会や暮らしに关心を深めていただくことができます。

[7] 主な出陳宝物

1 北倉40	御 甲 残欠 (よろいの残欠)	一括
2 北倉70	五色 龍歯 (くすり)	1箇
3 北倉150	花氈 (フェルトの敷物)	1床
4 中倉157	粉地彩繪箱 (献物を入れた箱)	1合
5 中倉95	むらさきがわさいもんしゅぎょくかざりし しゅうらのおびぎんけつ (珠や刺繡で飾った帯)	4片
6 中倉131	烏犀把 漆 鞘樺纏黄金珠玉 狂 刀子 (珠玉かざりの小刀)	1口
7 南倉70	平螺鈿背円鏡 (螺鈿かざりの鏡)	1面
8 中倉169	墨絵弾弓 (曲芸や楽人が描かれた遊戯用の弓)	1張
9 中倉174	桑木木画墓局 (団墓の盤)	一具
10 南倉101	紫檀 槽琵琶 (弦楽器)	1面
11 南倉180	孔雀文刺繡幡 (刺繡でかざった幡)	1枚
12 中倉17	続修 正倉院古文書後集 第十七巻 [更可請章疏等目録] (書物の借用リスト)	1巻
13 中倉12	馬鞍 (騎馬用の座具)	一具

[解説]

※法量の単位は、寸法=センチメートル、重量=グラム

※写真提供=宮内庁正倉院事務所

1

北倉40

御 甲 残欠 (よろいの残欠) 一括

[出陳番号1]

札長7.2 幅0.9~1.2 他

前回出陳年=昭和61年(1986)

正倉院には数多くの武器や武具が伝わる。本品は奈良時代の甲冑の一形式である挂甲の残片で、甲を形成していた小札と呼ばれる小さな鉄製の板約1900枚が伝わったもの。『国家珍宝帳』には、大仏への献納品として100領の甲が記載されているが、そのうち挂甲1領は早くに宝庫から出され、残りはすべて天平宝字8年(764)の藤原仲麻呂(惠美押勝)の乱に際して出蔵されて宝庫に戻らなかった。そのため、本品が『国家珍宝帳』記載の挂甲に該当するものかどうかは不明である。

小札はいずれも頭が剣先形で、他端に向かってわずかに幅を減じる。小札



どうしを綴じ連ねる紐を通すための小孔があけられており、一部に鹿革製の紐と白や紫の組紐が残っている。古代の甲の実態をうかがわせる貴重な品。

2

北倉70

五色龍齒（くすり） 1箇

[出陳番号2]

歯面の長さ16.7 重4655

前回出陳年=平成22年（2010）

聖武天皇の四十九日に当たる天平勝宝8歳（756）6月21日、お后の光明皇后は聖武天皇の遺愛品とともに、薬物60種を大仏に献納した。献物帳の『種々薬帳』には、堂内に安置して仏を供養するために献納するが、もし病に苦しむ人々がいれば薬を分け与えて良いとし、また彼らが亡くなった場合には花蔵世界（盧舍那仏=大仏の世界）に生まれ変わるように願っている。光明皇后は以前より悲田院や施薬院を創設するなど病人や孤児の救済に尽くしていたが、薬物の献納はその活動の一環に位置付けることができる。



五色龍齒はこの時献納された薬物の一つ。「龍齒」と呼ばれるが、実際には象の歯の化石である。漢方薬として用いられ、鎮静などの薬効があるとされる。

3

北倉150

花氈（フェルトの敷物） 1床

[出陳番号15]

長245 幅123

前回出陳年=昭和52年（1977）

花氈は文様を表したフェルトの敷物で、羊毛に湿気を加えながら圧力をかけ、繊維を縮絨させてつくられる。従来、フェルトの文様表現については、ベース（地氈）に文様のパーツとなる羊毛材料を嵌め込む手順が想定されていた。しかし、近時の調査で、文様のパーツを配置した上からベースの羊毛をのせ、縮絨させる方法によりつくられたことがわかり、中央アジアなどに残る伝統的技法と共に通していることが指摘されている。

本品は一对の大きな円形の花文を表し、四隅に草花文、長辺の中央に草花と山岳文を配したもの。文様パーツとしては、主にプレフェルト（羊毛が少し絡んだ状態のシート状のもの）が使われており、科学調査で、褐色部分には蘇芳（すおう）、青色部分には藍（あい）の使用が確認された。裏面に「東大寺」印



があり、同寺の用具であったことが知られる。

4

中倉157

粉地彩絵箱 (献物を入れた箱) 1合

[出陳番号19]

縦22.4 横28.4 高9.2

前回出陳年 = 平成21年 (2009)

仏への献物を納めた箱。宝庫には同様の用途と考えられる箱が40合ほど伝わっているが、美しく装飾され、底部に脚^{きやく}を設けている品が多い。本品はヒノキ製で、外面と内面に彩絵を施している。外面は地に淡紅色を塗り、白・黄・橙・赤・緑・紫・黒などを用いて草花文を描いている。とりわけ蓋の上面は文様構成が豊かで、五弁のやや大きな花を中心に、四辺の中央と四隅に五弁花をつけた草花文を整然と配置している。脚は暗い緑系と赤褐色で彩られ、箱本体と印象を変えている。30年ほど前に行われた科学調査によって、本品の淡緑色の顔料より塩化物系鉛化合物が検出された。この物質はわが国で用いられた白色顔料に含まれることが指摘されており、これより本品は国産である可能性が高いことがわかる。



5

中倉95

紫 皮裁文珠玉 飾刺繡 羅帯残欠 (珠や刺繡で飾った帯) 4片

[出陳番号22]

最大のもの 長85.0 幅7.0

前回出陳年 = 平成20年 (2008)

宝庫に伝わる帯の中でも、もっとも華麗な品。現在は4片に分かれているが、合わせると約230センチメートルの長さになる。帯の芯^{あしぎぬ}には白の絶^{よし}を用い、それを茶褐色の絶と羅^らで包み、刺繡で装飾している。刺繡には撲り^{ふく}のない絹糸が用いられ、珠を連ねた格子文と小花文を表している。格子文の珠は、深緑・緑・黄・白などの色が移り変わるように並べられ、量綱文様^{うんげんもんよう}とされている。帯の縁は紫の組紐で縁取り、さらに真珠・ガラス・水晶などの珠玉を連ねた垂飾^{すいじょく}を飾っている。垂飾は格子文とつながるように配されている。帯の先端や途中に、紫色に染めた鹿革製の飾りを縫い付けている。



芯の絶には因幡国の国印と墨書が確認でき、因幡国（現在の鳥取県東部）より税として納められた絶を用いたことがわかる。

6

中倉131

う さいのつかうるしのさやかばまきおうごんしゅぎょくかざりのとうす
烏犀把漆鞘樺纏黃金珠玉莊刀子 (珠玉かざりの小刀) 1口

[出陳番号25]

全長30.5 把長11.7 鞘長22.7 身長15.8 茎長7.1

前回出陳年=平成11年(1999)

刀子は携帯用の小刀で、紙を切ったり木を削ったりする実用の文房具として、また腰から下げて身を飾る佩飾品として使用された。正倉院には、聖武天皇の遺愛の刀子や、貴人が東大寺に献納したと見られる刀子があわせて67口伝わっている。本品はその中でも特に大型に属する品で、こしらえ (外装) の装飾に意を凝らしたつくりが注目される。つかには黒みを帯びた犀角 (烏犀角) が用いられ、鞘は黒漆地の上から5箇所に樺纏を施し、その間隙に青色のガラス玉と赤の伏彩色を施した水晶を交互に嵌め込む。金具は金製で、つかがしらと鞘尾の金具には唐草文様が透彫されている。全体の黒い色調の中で、珠玉や金具の鮮やかな輝きが映える意匠は、本品に高貴な趣を与えていた。刀子造で細直刃文を焼いた刀身は、刃部が研ぎ減りしたように細身になった特徴的な姿を示している。



7

南倉70

へいいらでんはいのえんきょう
平螺鈿背円鏡 (螺鈿かざりの鏡) 1面

[出陳番号28]

径39.5 縁厚1.1 重5545

前回出陳年=平成7年(1995)

きょうはい らでん こはく たいまい
鏡背を螺鈿や琥珀、玳瑁といった珍奇な素材で装飾した白銅製の鏡。鏡背の文様は、小花文を連珠状に連ねた界線で内区と外区に分かつ構成をとる。内区は鈕 (つまみ) を中心として八方に花文を配し、外区は獅子や犀を小花文で囲んだモティーフを主文として、周囲を鳥や唐花の文様でぎやかに埋めている。また、これらの文様の間隙にはトルコ石の細片がちりばめられ、青や緑の輝きを放つ。正倉院伝来の螺鈿鏡では、鈕を中心として同心円状に文様が配されるものが多いが、本品は上下方向の明確な文様構成をとる珍しい品である。なお、きょうたい 鏡体についての近年の科学調査でアンチモンを多く含む金属組成であることが確認され、従来指摘されていた唐製の白銅鏡の組成とはやや異なる部類に属することが明らかになった。



中倉169

墨絵弾弓 (曲芸や楽人が描かれた遊戯用の弓) 1張

[出陳番号30]

長162.0

前回出陳年=平成19年 (2007)

弾弓は丸玉をはじく弓をいい、武器として発生したが、後に遊戯（ゲーム）用ともなった。宝庫には2張の弾弓が伝わるが、いずれも遊戯用。本品は木製（樹種は不明）で、下から三分の一ほどの位置に握りを設けている。弓身内側の握り以外の部分には、墨で散樂とそれを楽しむ人々の姿を描いている。散樂とは中国の民間芸能で、歌舞のほか幻術、奇術、曲芸などが行われた。わが国にも伝わり、奈良時代には唐散樂と呼ばれた。本品には楽器を演奏する人々、舞人、竿を使った曲芸、童子を肩にのせる大力の芸、弄丸芸（玉取・お手玉）、見物人などが細かい筆づかいで描かれている。弦はマダケ製で、中ほどに玉をのせる座を設けている。



全図



部分

中倉174

桑木木画碁局 (囲碁の盤) 1基

[出陳番号31]

縦52.0 横51.9 高15.5

前回出陳年=平成21年 (2009)

囲碁に使われた盤。盤面は象牙による界線を縦横に19条施し、界線の交点9箇所に象牙・コクタン・金を象嵌してつくった星（井目）を配したものであるが、小口切りのクワノキの薄板を一面に貼り並べ、その木目を意匠に採り入れた装飾はとりわけ目を引く。盤面側面は各面とも象牙の界線で区画分けし、中央と両端の区画に紺牙・紅牙撥鏤（色染めした象牙に文様を線刻する技法）で、その間の小区画にヤコウガイ毛彫りで、それぞれ草花や虫の優美な文様を表す。またそれぞれの区画は木画による幾何学文様で額縁風に縁取られる。脚の部分にはシタンが用いられ、金泥で木理文を描き、稜角と脚の剝形面に象牙を施している。正倉院には3基の碁盤が伝わり、木画紫檀碁局（北倉36）がよく知られるが、本品も様々な装飾技法が凝らされた特色ある品といえよう。



10

南倉101

紫檀 槽 琵琶（絃楽器） 1面

[出陳番号32]

全長98.5 最大幅41.2

前回出陳年=平成14年（2002）

四絃で頸が直角に曲がった器形をもつ琵琶は、古代ペルシアに起源をもつ。正倉院には5面の四絃琵琶が伝わり、多くは槽（胴の背面）を木画や螺鈿といった技法でぎやかに飾るが、本品は槽の装飾がまったくない簡素なつくりを示す。槽や鹿頸はシタン、転手はコクタン、海老尾や絃門はツゲといった具合に、諸地域に産する様々な材が贅沢に使われている。棹（撥受け）には皮革が貼られ、つがいの水鳥と、それに襲いかかる猛禽のいる山水景が描かれる。金箔を一部に用いた装飾的な山水と、羽毛などを細かく描いた写実的な鳥を巧みに同居させた、高度な構成力を示している。朱を地色に用いた珍しい例でもあり、彩絵の上から全面に油を引く油色の技法が見られるなど、古代の絵画資料としても注目される品である。



11

南倉180

孔雀文刺繡幡（刺繡でかざった幡） 1枚

[出陳番号39]

縦81.2 横30.0

前回出陳年=平成18年（2006）

紫色の綾を地裂とし、孔雀と草花、花樹を刺繡で表している。刺繡技法は刺し繡を中心に、鎖繡、返し繡などが用いられ、糸は擦りのない絹糸を用いている。刺繡は文様部分にのみ施され、表裏両方から鑑賞できる両面刺繡である。左右の縁は、緑色を等間隔に染めた純で縁取られている。縦長の形状で、表裏から鑑賞する形式であることから、寺院の法要等において掲げられた幡の一部であると考えられている。宝庫には聖武天皇の一一周忌法要に用いられた品をはじめ数多くの幡が伝わる。刺繡装飾の幡も少なくないが、本品はその中でもっとも華麗な品である。

なお、今回出陳されている花鳥文刺繡幡残片（出陳番号40）はもとは本品と一連の品と考えられる。



中倉17

ぞくしゅうじょうそういん こ もんじょこうしう

続修 正倉院古文書後集 第十七卷 [更可請章疏等目録] (書物の借用リスト)

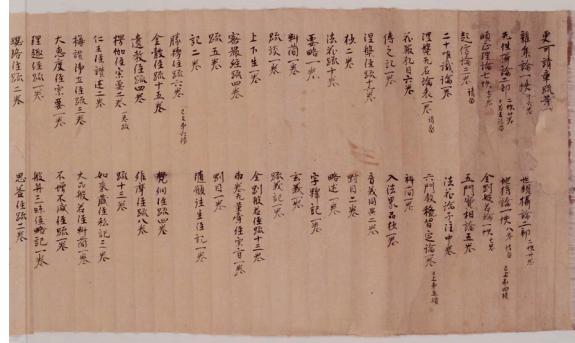
1巻

[出陳番号48]

縦30.8

初出陳

天平20年（748）6月10日に、僧の平損が、写経所において今後書写するべきものとして選び取った書物のリストである。仏書127部と、仏教以外の書物43部について、その書名と巻数が記される。仏書は經典の注釈書や解説書が中心で、元曉など新羅僧の著作を含むこと等から、新羅での滞在経験を持つ大安寺僧の翻譯（翻詳とも。生没年不詳）の旧蔵書と推定されている。仏教以外の書物では、詩文集や史書、兵書、天文書、医書などがみられる。たとえば『新修本草』は、唐の高宗の顯慶4年（659）に完成した勅撰の本草学（医療に供する薬物の学問）の書物で、奈良時代前半にはわが国にもたらされており、このように写経所での書写も計画されていたことが知られる。



中倉12

うまのくら 馬鞍（騎馬用の座具）

一具

[出陳番号59]

鞍橋：前輪高25 後輪高24 鞍褥：前後間の長37 鞍：長54

屨脊：上部長56 鐙：高17.8 幅15

前回出陳年=平成15年（2003）

馬鞍は騎馬に際して用いられる座具の一式。人がまたがる木製の鞍橋、鞍橋の座面に敷く鞍褥、鞍橋の下に取り付けて馬への衝撃を和らげる鞍、馬の背に直接当てる屨脊、乗馬の足掛かりとなる鐙などで構成される。本品は、正倉院に伝わった計10組の馬鞍の1組。鞍橋は、前輪と後輪（前後につけられた山形の部位）にクワ、居木（前・後輪の間にわたす部位）にカシをそれぞれ素木のまま用いた簡素なつくりであるが、座具として微妙な曲面をもつ形状に仕上げる点に高度な木工技術を示す。一方、鞍褥や屨脊には、花喰鳥や唐花文を染料で染め抜いた皮革（鹿革か）を用いており、質実な造形の中に華やかさを添える。馬鞍を構成するパツツを皆具した、奈良時代の馬具の実態を伝える貴重な遺品である。



[8] 普及事業

〈公開講座〉

10月31日（土）

「正倉院の石薬とその素材」 鶴 真美氏（宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）

11月7日（土）

「武器・武具の献納と薬物の献納について」 内藤 栄（奈良国立博物館学芸部長）

【時間】各回とも午後1時30分～3時（午後1時開場）

【会場】当館講堂

【定員】各回とも90名（事前申込先着順）

【申込方法】奈良国立博物館ホームページ「講座・催し物」内の申込み画面より必要事項を入力の上、お申込みください（WEB申込のみとなります）。

【受付期間】10月5日（月）～各講座開催前日まで

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）

※聴講には事前申込が必要です。（当日申込でのご参加はできません）

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

※本年は、例年行っている当館講堂でのボランティアによる解説は実施しません。

[9] 問い合わせ

奈良国立博物館 Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）

電話 ハローダイヤル 050-5542-8600

ホームページ（URL） <https://www.narahaku.go.jp/>

〈交通案内〉近鉄奈良駅下車徒歩約15分。またはＪＲ奈良・近鉄奈良駅から市内循環バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

[10] 広報用画像について

※広報用画像・記事掲載に関するお問い合わせ先

株式会社ミューズ・ピアール（担当：大山、末田、小林）

info@musepr.co.jp

〒107-0052

東京都港区赤坂9-1-7 赤坂レジデンシャル770

TEL 03-6804-5045 FAX 03-5785-2627

【画像掲載にあたってのお願い】

- ・ 正倉院宝物の画像は、宮内庁正倉院事務所より奈良国立博物館で開催する「第 72 回 正倉院展」の広報用として使用許可を頂いているものです。展覧会紹介の原稿作成以外には使用しないでください。
- ・ 画像をご使用の際は、原稿の中に必ず、①展覧会名「第 72 回 正倉院展」、②会場名「奈良国立博物館」、③会期「10 月 24 日～11 月 9 日」、④宝物名 を明記してください。
- ・ 宝物は、全図で使用してください。改変、部分変更、文字のせはできません。
- ・ 使用後はデータを破棄または消去してください。
- ・ WEB への掲載は展覧会会期中までとしてください。会期終了後はデータを削除してください。
- ・ ご掲載いただいた場合、掲載紙・誌、または媒体（DVD 等）をお送りください。
- ・ 写真提供者を表示する場合は、「宮内庁正倉院事務所」と記してください。

[別紙]

観覧料金

前売日時指定券	
通常券（一般）	2,000円
通常券（中・高・大）	1,500円
割引券（一般）	1,900円
割引券（中・高・大）	1,400円
キャンパスメンバーズ券 教職員	1,900円
キャンパスメンバーズ券 学生	400円
無料観覧券 障害者 1名	無料
無料観覧券 障害者 1名 + 介護者 1名	
無料観覧券 小学生他	

※観覧には、前売日時指定券が必要です。当日券の販売はありません。

※前売日時指定券の予約・発券には、各種手数料が必要となる場合があります。

※前売日時指定券は、

ローソンチケット[Lコード：57700]（ローソン及びミニストップ各店舗、または公式サイト
<https://l-tike.com/>）、チケットぴあ[Pコード：763-373]（電話受付[TEL：0570-02-9999]、公式サイト<https://t.pia.jp/>、またはセブン-イレブン各店舗）で販売します。当館のチケット売場での販売はありません。

※読売新聞オンラインチケットストア<https://ticket.yomiuri.co.jp/sf/tkt25/web>で抽選販売します。

「プレオーダー期間〔9月26日（土）～10月6日（火）〕」に同ストアでお申し込みください。チケットの購入には、「読売ID（無料）」と「イープラスの会員登録（無料）」が必要です。

※前売日時指定券の販売は、9月26日（土）午前10時からです（最終販売日時は、購入方法により異なります）。売り切れ次第販売を終了します。

※前売日時指定券には販売枚数の制限があります。開館時間から原則1時間毎に約260名。

※1回につき、4枚までの購入が可能です。

※団体料金の設定はありません。

※通常券（中・高・大）を予約・発券された方は、観覧当日に学生証などの提示が必要です。ご提示いただけない場合には、通常券料金（一般2,000円）との差額をお支払いいただきます。

※割引券・キャンパスメンバーズ券・無料観覧券を予約・発券された方は、観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です（小学生を除く）。ご提示いただけない場合には、通常券料金（一般2,000円、中・高・大1,500円）との差額をお支払いいただきます。

※割引対象は以下の通りです。

ミュージアムぐるっとバス・関西2020、奈良トライアングルミュージアムズ、KINTETSU RAIL PASS

(Plus/1day/2day)、国立博物館メンバーズパス、各種メンバーズプレミアムパス（東京国立博物館、九州国立博物館）、各種友の会（東博、九博、京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館、MIHO MUSEUM）、奈良博プレミアムカード（3回目以降の観覧）

※障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）・小学生・奈良博プレミアムカード会員（1回目及び2回目の観覧）・各種協会〔国際博物館会議（ICOM）、日本博物館協会、美術評論家連盟（AICA）〕会員は無料ですが、無料観覧券の予約・発券が必要です。なお、未就学児の場合には無料観覧券の予約・発券は不要です。

※前売日時指定券では、名品展（なら仏像館・青銅器館）を観覧することはできません。ただし同券をお持ちの方は、名品展（なら仏像館・青銅器館）を割引料金〔一般200円（通常700円）、大学生100円（通常350円）〕で観覧することができます。なお、高校生以下及び18歳未満の方・70歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。

※各旅行会社・奈良市内の各宿泊施設向けに、本展の前売日時指定券を販売します（事前申し込み・抽選制）。料金は一律2,000円です。申し込みの受付期間は、9月15日（火）午後2時から23日（水）正午までです。

※旅行会社・宿泊施設向け販売に関するお問い合わせ先
奈良国立博物館 総務課 財務係
Tel 0742-22-7772 Fax 0742-26-7218

※報道発表資料に関するお問い合わせ先
奈良国立博物館 学芸部 情報サービス室
Tel 0742-22-4463 Fax 0742-22-7221